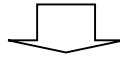


第3章 大規模地震に備えての交通の安全

被害状況の想定と方針

南海トラフ地震に備え、市内の被害状況は、静岡県第4次地震被害想定（レベル2）を想定する。



1 南海トラフ地震臨時情報等発表時

突発的な地震発生に備えて対策を進めることを基本とし、臨時情報が発表された場合は、情報を活用し被害軽減につなげる。

2 南海トラフ地震等発生時

災害応急対策を円滑に行うため、陸上交通機能の早期回復等のための必要な交通対策等を実施する。



《実施すべき施策》

- ① 臨時情報（巨大地震警戒）発表時
- ② 地震発生時
- ③ 平時における措置
- ④ 他の交通安全対策

第1節 被害状況の想定と方針

ここで言う大規模地震とは、南海トラフ地震の事を指し、市内の被害状況は、静岡県第4次地震被害想定（レベル2）を想定する。

1 南海トラフ地震臨時情報等発表時

突発的な地震発生に備えて対策を進めていくことが基本であるが、「南海トラフ地震臨時情報」（巨大地震警戒）（以下「臨時情報（巨大地震警戒）」という。）が発表された場合には、その情報を活用し被害軽減につなげる。

2 南海トラフ地震等発生時

南海トラフ地震等発生時（以下「地震発生時」という。）には、災害応急対策を円滑に行うため、陸上交通機能の早期回復、混乱の防止等交通を確保するための、必要な交通対策等を実施する。

第2節 実施すべき施策

1 臨時情報（巨大地震警戒）発表時

必要な体制を構築のうえで情報収集及び連絡活動を行い、道路交通情報板やサインカー等による情報提供を行い市民への周知を図る。

2 地震発生時

(1) 緊急交通路等の確保

地震発生時においては、被災地域への車両の流入抑制を行うとともに、被害状況を把握した上で、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）の規定に基づく通行禁止等の必要な交通規制を迅速かつ的確に実施する。

(2) 道路交通情報の提供

地震発生時において、道路の被災状況や道路交通状況を迅速かつ的確に収集・分析・提供し、復旧や緊急交通路、緊急輸送道路等の確保及び道路利用者等に対する道路交通情報の提供を行う。

3 平時における措置

(1) 緊急通行車両の事前届出の推進

災害応急対策に従事する車両の円滑な通行を確保するため、緊急通行車両事前届出の推進を図るとともに、変更に伴う再申請について周知徹底を図る。

(2) 交通安全施設の整備

地震発生時における適正な交通管理を行うため、交通情報の迅速な収集・提供を図る。

(3) 交通総量抑制対策の推進

臨時情報（巨大地震警戒）発表時や地震発生時における車両の使用の自粛についての広報啓発を推進する。

(4) 信号機電源付加装置の整備

停電による信号機の滅灯に備え、信号機電源付加装置及び可搬式発動発電機を信号機に接続する災害用電源箱や必要な資機材の整備・充実を図る。

(5) 臨時情報（巨大地震警戒）発表時及び地震発生時における自動車運転者の執るべき措置の周知徹底

臨時情報（巨大地震警戒）発表時には事前避難対象地域内の道路への車両の走行を控えること、地震発生時には、①できる限り安全な方法により車両を道路の左側に停止させ、②停止後は、カーラジオ等により災害情報及び交通情報を聴取し、その情報及び周囲の状況に応じて行動すること、③車両を置いて避難するときは、できるだけ道路外の場所に移動するとともに、やむを得ず道路上に置いて避難するときは、できる限り道路の左側に寄せて駐車し、エンジンを切り、エンジンキーは付けたままとし、窓を閉め、ドアロックしない等、自動車運転者の執るべき措置について、各種講習会、交通安全運動等のあらゆる機会を通じて周知徹底を図る。

4 その他の交通安全対策

(1) 既存の道路橋の耐震補強等

地震発生時の際の交通路を確保するため、緊急輸送路等にある橋梁に対して、橋脚の補強や落橋防止システムの設置等を引き続き推進する。

(2) 既存の鉄道構造物の耐震補強整備

南海トラフ地震等に対する安全性を向上させるため、平成23年3月の東日本大震災等、これまでの地震被害の状況を踏まえて、鉄道施設の耐震補強の促進を図る。

(3) 沿道建築物等の耐震化の促進

地震発生時における緊急輸送ルートや避難路の通行を確保するため、プロジェクト「TOUKA I-0」総合支援事業により、緊急輸送ルート等の沿道にある建築物やブロック塀等の耐震化を促進する。